

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	113	実施計画番号	56
事務事業名	とわだ駒街道マラソン大会		
個別事業名		事業開始年度	平成7年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	当市で掲げている「市民ひとり1スポーツ」の啓発と日本の道100選に選ばれた「駒街道」の全国への発信による当市の知名度アップをねらいとして開催している重要なイベントである。		
事務事業の目的	マラソンを通して、「市民ひとり1スポーツ」の普及振興と健康増進・参加者相互の親睦を深める。また、官庁街通り(通称「駒街道」)を広く紹介し、市民の活性化を図る。		
実施状況	参加者数の推移は、21年度1162人、22年度1196人、23年度1235人、24年度1171人と千人規模で推移している。		

【人件費の推移】

		23年度実績	24年度実績	25年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	2,160	2,160	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	60	60	60
	人件費(千円)	234	234	234

【事業費の推移】

	23年度実績	24年度実績	25年度計画
事業費合計(千円)	3,764	3,735	4,271
うち一般財源	1,900	1,900	1,900
うち国県支出金	0	0	0
うち地方債	0	0	0
うちその他	1,864	1,835	2,371

【指標】

活動指標	活動指標名①	参加者数				
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
		人	1,235	1,171	1,300	
	活動指標名②					
	計算式等	単位	23年度実績	24年度実績	25年度計画	
成果指標	成果指標名①	目標参加者数				
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
	前年実績×3%	人	目標値	1,232	1,272	1,206
			実績値	1,235	1,171	
			達成度(%)	100%	92%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	23年度	24年度	25年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	113
計画No	56

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由		
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 市民が年齢性別問わず参加できるスポーツイベントとして開催するものであり、市民の幅広い年齢層の参加者が多いことから、妥当性は高いものと考えられる。		
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2				
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 市のホームページ、インターネット申込の活用は行っているものの、さらに周知方法と申込方法を充実させる必要がある。		
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	B	1				
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2				
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	5	コスト削減の余地 1 / 6 ⑥⑧経費削減の検討と体育協会などへ委託する等の検討の余地がある。		
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2				
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1				
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4 ⑩参加記念品の見直し検討の余地がある。		
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
					現在の適性	17 / 20	改善の余地	3 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性(選択)

⇒ **有効性を改善して継続**

方向性の理由	当市で掲げている「市民ひとり1スポーツ」の啓発と日本の道100選に選ばれた「駒街道」の全国への発信による当市の知名度アップをねらいとして開催している重要なイベントである。
今後の具体的な取組み方策と狙う効果	参加者募集について、ポスター掲示、チラシ配布はもとより、広報誌、雑誌、新聞、及びホームページなどの積極的な活用によって当該イベントの周知徹底を図るほか、参加費用(参加賞など経費を含め)の見直し等による参加し易い環境づくりに努め、市内外から多くの参加者を募る。